

**編集後記**：編集後記を担当するのは、どうやら通算で12回目ようです。ひょっとしたら誤差があるかもしれませんが、多分そうだと思います。随分と長く「天気」編集委員を務めてきたなあと思ってしまいます。これまでに編集委員会では様々なことが話し合われてきましたが、最近では冊子体から電子ジャーナルへ移行された会員の皆さんも多くいらっしゃるっており、「天気」のオンライン閲覧機能の強化なども課題として挙げられています。内容もさることながら、便利に読んでいただけるように工夫を凝らしていきたいところです。

さて、前回の編集後記の担当は2020年12月号でしたので、2年5ヶ月ぶりになります。前回はコロナ禍に振り回された2020年の天候を振り返りつつ、2021年もコロナ禍が続くであろうことを記述しましたが、さらに翌年、翌々年も続くことになり、何とも不自由な年月が経過してしまいました。一方ですっかりリモート

ワークも定着し、ワークライフバランスを掲げて仕事とプライベートを上手に両立された方も多いのではないのでしょうか。

その間、編集委員としての私は、昨年から「調査ノート」の編集担当を引き継ぐことになりました。調査ノートは、「気象に関連する興味深い現象や事実を紹介する。気象業務に従事する会員からの投稿も歓迎する」と投稿案内にて紹介しています。論文・短報・解説と違い査読がありませんので、原稿を投稿しやすいコーナーでもあるかと思います。もちろん、内容によっては、専門家の意見を求めて掲載の可否を判断することもあります。投稿のハードルは論文・短報より低いと思います。私が編集担当を引き継いでから8件の投稿がありましたが、どれもとても興味深く面白い内容で、たいへん勉強にもなりました。今後もどんな原稿が投稿されてくるのか楽しみにお待ちしております。

(田口晶彦)